

平成30年度の三木市教育委員会の事務の
管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書

(概要版)

三木市教育委員会

目 次

I	教育委員会の活動状況	P 1
II	教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額	P 2
III	施策の点検・評価	
1	子ども一人一人の力を伸ばします	P 3
2	魅力ある学校園づくりを進めます	P 5
3	人と人との繋がりを大切にする生涯学習を進めます	P 7
4	その他の取組	P 9
5	市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行 している事務	P 10
IV	外部評価者の評価	P 10
	[資料] 第2期三木市教育振興基本計画の数値目標(抜粋)	P 11

はじめに

平成30年4月の組織改編により、生涯学習及び公民館等に関する事務を本来の所管である教育委員会が担うことになりました。

一方、子育て支援及び児童福祉に関する事務を健康福祉部に戻し、福祉事務所の機能強化を図りました。

新しい組織体制のもと、三木市教育委員会では、「三木市教育大綱」の基本理念である「ふるさと三木を誇りとし、自立心あふれる人材の育成」に向け、「『心豊かに元気よく学び続ける』ひとづくり」を教育目標に掲げ、0歳から15歳までの切れ目のない教育・保育に取り組むとともに、すべての人が生涯にわたって学び、文化やスポーツに親しみ、それぞれの個性と能力を発揮できるひとづくり、環境づくりに取り組みました。

教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会が1年間に行った施策を自ら振り返り、評価するものです。

この概要版は、平成30年度に重点的に取り組んだ施策についての点検・評価の概要をお示しするものです。

この点検・評価を通して、現在実施している施策や事務事業における成果と課題を整理するとともに、見直しと改善を行い、よりの確で効果的な施策を実施していくことで、三木市の教育の一層の充実と発展に資することができるよう今後も努力してまいります。

なお、各施策の詳細については、本編をご覧ください。

令和元年9月

三木市教育委員会

I 教育委員会の活動状況

1 教育委員

(平成31年3月31日現在)

役職	氏名	委員任期
教育長	西本 則彦	平成30年4月1日～令和3年3月31日
委員 (教育長職務代理者)	石井 ひろ美	平成28年1月1日～令和元年12月31日
委員	浦崎 秀一	平成28年10月1日～令和2年9月30日
委員	大北 由美	平成30年4月1日～令和元年9月30日
委員	實井 政治	平成30年10月1日～令和4年9月30日

2 教育委員会の開催状況

定例会を12回、臨時会を5回開催し、議案15件を審議するとともに、協議事項10件を取り扱いました。

3 総合教育会議

総合教育会議では、学校再編の方向性について協議を行いました。

学校再編を検討するに当たっては、市内全域で考える必要があり、とりわけ、志染中、星陽中及び吉川4小学校については、早急に対応していくことを確認しました。

4 教育委員のその他の活動状況等

幼稚園、認定こども園、小学校、中学校及び特別支援学校の入園・入学式、修了・卒業式及び運動会等の学校園の事業に出席したほか、成人式、スポーツ賞表彰式、みっきいふれあいマラソン等の文化・スポーツ事業などに出席しました。

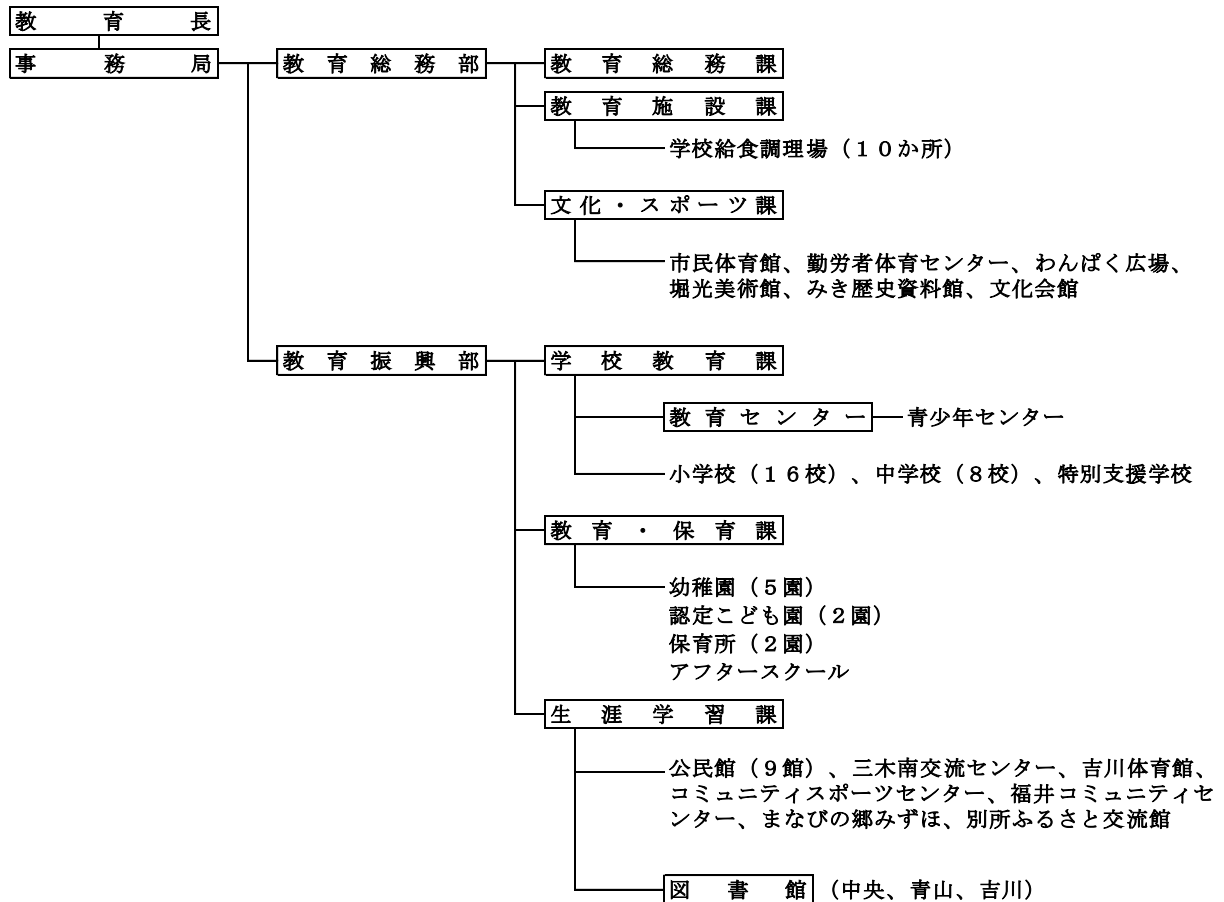
さらに、研究発表会やオープンスクールの際に学校を訪問し、教育現場の実態の把握に努めるとともに、学校再編に係る先進地視察として、他府県の義務教育学校や小中一貫校を訪問しました。

また、播磨東地区、兵庫県及び近畿市町村教育委員会連合会等が主催する研修会に積極的に参加し、今後の教育のあり方等について理解を深めることができました。

II 教育委員会事務局の組織、職員数、主要業務及び決算見込額

1 教育委員会事務局の組織及び職員数（関係施設を含む。）

(1) 教育委員会事務局組織図（平成30年4月1日現在）



(2) 教育委員会事務局の職員数

(各年度3月31日現在)

区 分	平成30年度	平成29年度	増減
正 職 員	101 人	85 人	16 人
非 常 勤 職 員	321 人	299 人	22 人
合 計	422 人	384 人	38 人

(教育長を含む。)

2 教育委員会事務局の主要業務

教育委員会事務局は、教育総務部と教育振興部の2部制で業務を進めています。

教育総務部には、教育総務課、教育施設課、文化・スポーツ課を配置しています。

教育振興部には、学校教育課、教育・保育課、生涯学習課のほか、教育センター、図書館などの施設を配置しています。

教育委員会事務局の平成30年度の主な業務は、本編をご覧ください。

3 教育委員会所管業務の歳出決算見込額

(単位：円)

款	平成30年度 (決算見込額)	平成29年度 (決算額)	増減
教育費	2,817,409,144	4,142,192,172	△1,324,783,028
民生費	2,937,104,626	4,420,870,031	△1,483,765,405
総務費	42,969,937	20,416,493	22,553,444
合計	5,797,483,707	8,583,478,696	△2,785,994,989

Ⅲ 施策の点検・評価

1 子ども一人一人の力を伸ばします

◇ 取組の目的

就学前教育・保育の充実、そして一人一人の状況に応じた学力、心、体力の育成を通じて、子どもたちの個性と能力を伸ばすことを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学前教育・保育の推進
(2) 「確かな学力」の向上
(3) グローバルな人材を育成する教育の推進
(4) 「豊かな心」の育成
(5) 「健やかな体」の育成
(6) 特別支援教育の充実

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学前教育・保育の推進

ア 幼保一体化計画に基づく保育者の質の向上のための研修事業【教育・保育課】(補助執行)

三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラムを三木市就学前教育・保育共通カリキュラムに改訂しました。このカリキュラムに基づき、さらなる教育・保育の質の向上をめざしていきます。

イ 特定教育・保育施設の評価及び監査【教育・保育課】(補助執行)

市内の特定教育・保育施設の教育・保育の質の向上及び運営の適正化を図るために、市独自に第三者による評価及び監査を実施しました。

ウ 保育事業【教育・保育課】(補助執行)

保育教諭の処遇改善に伴い保育教諭が確保できたことにより、各園において受け入れ人数が増加しました。

今後も保育教諭の処遇改善をはじめとした確保方策を展開し、希望する園への入園を待つ児童数0人に向けた取組を行っていきます。

(2) 「確かな学力」の向上

基礎学力の定着と教育の質の向上【学校教育課】

三木市教育委員会作成の「みきっ子家庭学習ガイド」や各校で作成している学習のしおりなどを活用し、家庭訪問や保護者会にて啓発を行い、家庭と連携しながら家庭学習の定着を図りました。

(3) グローバルな人材を育成する教育の推進

ア 話せる英語教育の推進【学校教育課】

平成28年度からすべての小学校が文部科学大臣から教育課程特例校の指定を受け、小学校低学年から英語教育に取り組む中で、平成30年度も発達段階に応じた外国語活動の授業を行いました。

イ 我が国と郷土を愛する心を養う教育（ふるさと教育）【学校教育課】

三木市歌や三木音頭等の学習、肥後の守を使った工作の授業を市内全小学校16校で、「ふるさと三木の歴史学習」を3小学校でそれぞれ実施しました。

(4) 「豊かな心」の育成

ア 生徒指導体制の確立【学校教育課】

小学校での問題行動の発生件数は増加しましたが、個々の児童への細やかな対応、指導体制の強化、保護者や関係機関との連携など、改善に向けた取組を進め、大きな事案に発展することはありませんでした。

イ 同和教育を中心に据えた人権教育の推進【学校教育課】

児童生徒の人権意識の向上を図るため、各校において、人権教育推進計画を作成し、全教育活動を通して、同和教育を中心に据えた人権教育を推進しました。

(5) 「健やかな体」の育成

ア 各学校園での体力向上に向けた取組の推進【学校教育課・教育・保育課】

園児児童生徒の発達の段階に応じて、体を動かす楽しさや心地よさを体感させ、自ら進んで「健やかな体」を育めるよう、運動習慣の定着を図っています。

しかしながら、全国体力調査の結果、三木市の児童生徒の体力は、全国平均に至っていない種目もあるため、継続的な取組が必要です。

イ 学校給食の充実【教育施設課】

食育の生きた教材としての学校給食の充実に努め、給食に使用する地元産食材を啓発し、特産物についての理解や郷土愛を高めました。

(6) 特別支援教育の充実

ア 学校園・各機関との連携を踏まえた特別支援教育の推進【教育センター】

就学前教育・保育施設と小学校間及び小中学校間において、継続した支援が子どもの実態や特性に応じて適切に行えるように、子どもの実態把握や具体的な支援のあり方等について、保護者及び学校園の相談に応じました。

イ 特別支援教育指導補助員の配置【学校教育課】

発達障害や様々な障がいを持つ児童生徒の学習支援、生活支援のために、特別支援教育指導補助員を小学校13校に38人、中学校6校に11人配置し、子どもたちの個々のニーズに応じた支援を行いました。

2 魅力ある学校園づくりを進めます

◇ 取組の目的

教職員の資質の向上や学校園情報の発信、また、安全・安心な教育環境の整備を通じて、地域社会の中でより積極的な役割を果たしていける学校園づくりを進めます。

◇ 取組の項目

(1) 学校の組織力の向上
(2) 教職員の資質及び指導力の向上
(3) 開かれた学校園づくりの推進
(4) 安全・安心な教育環境の整備
(5) 学校の教育環境の充実と検討

◇ 主な点検・評価項目

(1) 学校の組織力の向上

ア 学校の組織力の向上【学校教育課】

組織のリーダーを育成するため、元市内小学校長を講師として招聘し、講座を開催しました。

各校においては、教職員に対して人事評価・育成システムに基づく面談を実施し、協働体制の確立を図りました。

また、事務職員に、学校運営の専門性を活かし、業務改善の取組を通じて、学校運営の活性化を図らせました。

イ 教職員の勤務時間適正化対策【学校教育課】

教職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けてノー残業デーを推進した結果、ノー残業デー(定時退勤日)は9割以上退勤できている日の割合が三木市全体で70%となっています。

(2) 教職員の資質及び指導力の向上

専門研修講座・校務システム研修の開催【教育センター】

園児児童生徒一人一人の可能性を伸ばし活力ある人材を育てるために、教職員等の研修と実践の統合を図り、教師力と学校力を向上させることを目的とした講座を実施しました。

(3) 安全・安心な教育環境の整備

ア 安全・安心な学校園をめざして【学校教育課・教育総務課】

三木市教職員危機管理ハンドブックを活用した研修等を行うことで、教職員の危機管理意識を高め、組織的に安全・安心な学校園づくりを進めました。

さらに、学校校区を7ブロックに別け、学校安全指導員(警察OB)を配置し、学校園内及び学校園区内における園児、児童生徒及び教職員等の安全確保を図りました。

イ 学校施設等の整備の推進【教育施設課】

大阪北部地震によるブロック塀の倒壊事故を受け、すべての学校園の安全点検を行い、建築基準法の規定に適合しないブロック塀の撤去を実施しました。

また、児童生徒が快適に学校生活を送れるよう、トイレの洋式化を実施しました。その結果、すべての校舎のトイレへの洋式便器の設置が完了しました。

(4) 学校の教育環境の充実と検討

学校の適正規模・配置の検討【学校教育課】

総合教育会議及び学校再編検討会議を開催し、「三木市の学校再編全体案」及び児童生徒数の減少が著しい学校について、「喫緊の課題とする学校」として検討を進めました。

保護者や地域の方々からのご意見やご要望を元に協議を続けて参りましたが、統合校や統合時期などについて具体的な協議が進んでいないことから、平成30年度末までに予定していた学校再編検討会議からの実施方針素案(提言)の提出は延期されました。

3 人と人との繋がりを大切にす生涯学習を進めます

◇ 取組の目的

地域や家庭教育の支援、人権教育の推進、市の特色を生かした文化・スポーツ振興事業を通じて、すべての人が尊重され、心豊かに学び続けることのできる社会づくりを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進
(2) 地域・家庭の教育力の向上
(3) 学びたいときに学べる環境の整備
(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化
(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実
(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成
(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

◇ 主な点検・評価項目

(1) 人権尊重の文化に根ざしたまちづくりの推進

ア 市民研修の充実【人権推進課】

住民学習の参加人数が伸び悩みました。特に若い世代の参加者が少なく、若い世代が参加する地域の行事や団体活動に合わせて開催するなど、若い世代をはじめ幅広い年代に参加いただく機会を作り、住民学習の充実に努めます。

イ 男女共同参画の推進【人権推進課】

男女共同参画社会の実現のために、各種セミナーを開催しました。今後は、「三木市男女共同参画プラン(第3次)」に基づき、男女共同参画社会の実現をめざした啓発活動を一層推進するとともに、講座内容の充実に努めていきます。

(2) 地域・家庭の教育力の向上

ア 家庭教育推進事業【生涯学習課】

家庭の教育力を高めるために、公民館では、家庭の役割についての認識を深めるなど、子どもの健全育成を支援しました。

イ 人の目の垣根隊【青少年センター】

児童生徒の安全安心を確保するため、登下校時の見守りを実施することで、地域の子どもは地域で守り育てるという機運や地域の連帯感と教育力を高めました。

ウ 青少年補導委員活動【青少年センター】

青少年の健全育成及び非行防止等のために、補導委員による街頭補導活動、青少年を取り巻く有害な環境の是正に関する啓発活動を実施しました。

(3) 学びたいときに学べる環境の整備

高齢者大学、同大学院の運営【生涯学習課】

ライフサイクルに応じた生きがいの創造と、地域活動を推進する指導者や協力者の養成のため、高齢者大学、高齢者大学大学院を開校しました。

「学び」や「交流」により、高齢者の生活がより豊かで、充実したものとなりました。

(4) 地域に根ざした生涯学習・市民活動の活性化

ア 公民館における学習機会の充実【生涯学習課】

市内10公民館において、乳幼児学級、女性セミナー、高齢者教室など、ライフステージに応じた生涯学習講座を開催しました。

イ みっきい生涯学習講師団【生涯学習課】

生涯学習及び地域の人材活用を推進するために、みっきい生涯学習講師団事業を実施しました。

この取組により、知識や教養が深まるとともに、交流の輪が広がりました。

(5) 市民ニーズに対応した図書館の充実

乳幼児から高齢者まですべての市民が便利に利用できる図書館の運営【図書館】

県の制度を利用し、整備した結果、高齢者等の安全かつ快適な利用に配慮した整備及び運営が行われていることが認められ、中央図書館が「ひょうご県民ユニバーサル施設」として認定されました

(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成

ア 歴史・美術の杜構想の推進【文化・スポーツ課】

みき歴史資料館を「みき歴史・美術の杜みゅーじあむ」の中核施設として、まちのにぎわいづくりや地域の活性化に取り組みました。

イ 文化・芸術団体の活動支援【文化・スポーツ課】

三木市の文化芸術の振興と普及を図るため、5人の優秀な文化芸術活動に対し、文化芸術奨励賞を授与しました。

(7) 生きがいを実感できる生涯スポーツの振興

ア 広く市民が参加できるニュースポーツ大会及び市内外の交流事業の実施【文化・スポーツ課】

子どもや高齢者、様々な事情によりスポーツをしていない人も気軽に体を動かし、積極的にスポーツを楽しんでもらえるよう、スポーツ推進委員とともに、ふれあいスポーツデー、スナッグゴルフ大会等を開催しました。

イ ゴールデンスポーツイヤーズに向けた事業の推進【文化・スポーツ課】

平成31年度から始まるゴールデンスポーツイヤーズに向けて、三木市は東京オリンピックフランス陸上競技代表チーム、パラリンピックネパールテコンドー代表チームのホストタウンに登録しました。

4 その他の取組

◇ 取組の目的

学校教育事業を補助する諸活動を通じて、子ども達の教育のより一層の充実を図ることを目的に取り組んでいます。

◇ 取組の項目

(1) 就学援助
(2) 通学（園）支援事業
(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業
(4) 奨学資金給付事業

◇ 主な点検・評価項目

(1) 就学援助【学校教育課】

経済的な理由で就学が困難な児童生徒の保護者に対して、就学に係る費用の一部を援助することにより、義務教育の円滑な実施に努めました。

(2) 通学（園）支援事業【教育施設課、教育・保育課】

学校園の統廃合により、遠距離通学（園）することとなった園児児童生徒及び三木特別支援学校に通学する児童生徒を対象に、スクールバスの運行又は通学補助金を交付し、通学支援を行いました。

(3) 中学校自転車通学者保険補助金交付事業【教育施設課】

自転車の利用者に自転車損害賠償保険の加入が義務付けられたことにより、中学校の自転車通学者に対し自転車通学者保険補助金を交付し、対象者の保護者負担を軽減することにより、全ての対象者の保険加入を促進しました。

(4) 奨学資金給付事業【教育総務課】

経済的理由で高校、大学、専修学校等の学資の支弁が困難な世帯に対し、奨学資金を給付し、教育の振興を図りました。

5 市長の権限に属する事務で教育委員会事務局職員が補助執行している事務

◇ 取組項目及びその成果と課題

放課後児童健全育成（アフタースクール）事業【教育・保育課】

昼間保護者等が家庭にいない小学校に就学している児童を対象に、児童の保護及び遊びを通して健全な育成を図るために、放課後児童健全育成（アフタースクール）事業の実施計画、施設整備、運営指導、運営管理、従事職員等の労務管理、調査・研究・統計、相談業務及び庶務業務を行いました。

IV 外部評価者の評価

兵庫教育大学教職大学院元教授の廣岡徹氏と神戸大学准教授の山下晃一氏に、学識者評価を賜りました。評価の詳細については、本編をご覧ください。

〔資料〕第2期三木市教育振興基本計画の主な数値目標

目標指標		平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	平成32年度 (目標値)
希望する園への入園を待つ児童数		168人 (H28.10.1現在)	96人 (H29.10.1現在)	95人 (H30.10.1現在)	0人
学校の授業時間以外に普段(月～金曜日)、小学生で1時間以上、中学生で2時間以上勉強している子どもの割合	1時間以上勉強している小学生	63.6%	61.8%	71.5%	70.0%
	2時間以上勉強している中学生	34.5%	34.7%	34.9%	50.0%
全国学力調査の全国平均を100とした時の指数	小学校	96	94	94	100
	中学校	99	103	103	104
英検を受験する生徒の割合 (中学生の英語に対する興味、関心の度合)		14.0%	16.0%	17.3%	30.0%
全国体力調査の全国平均を100とした場合の指数	小学校男子	95.1	96.5	97.1	100.0
	小学校女子	100.0	96.9	93.8	100.0
	中学校男子	93.0	92.8	91.4	100.0
	中学校女子	96.2	95.3	92.8	100.0
学校園評価アンケートにおける児童生徒のアンケートの結果	学校に行くのが楽しい	86.9%	87.1%	86.7%	90%
	授業がよくわかる	89.4%	90.0%	89.8%	92%
	先生が話しかける	83.3%	85.2%	84.4%	86%
インターネット会議システム活用学校		2校	2校	3校	8校
合同学習実施校	小学校	5校	5校	6校	7校
	中学校	1校	1校	1校	2校
住民学習参加人数		4,531人	4,192人	4,198人	4,900人
人の目の垣根隊会員数		767人	736人	774人	830人